



秋田市添川



年頭のあいさつ



財団法人
秋田県消防協会
会長 中 泉 松之助

平成二十年の輝かしい新春を迎え、県民の皆様並びに消防関係者の皆様には、常消防団員並びに消防職員の皆様には、常に消防防災の第一線にあってあらゆる災害から県民の生命・財産を守るため、日夜を分かたず献身的な活動をされておられますことに対し、深く敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。

題 字 初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人 〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中 泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp
印 刷 〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760

新春を迎えて



秋田県知事
寺 田 典 城

昨年梅雨も大雨の少ない穏やかな春を迎え、その年を通じて大きな災害のないことを祈っていたのでありますが、八月の県南での大雨洪水に続き、九月十七日に県北を中心に県内全域に発生した記録的な豪雨は、建物の破壊・床上床下浸水が二、二九〇棟にのぼるなどで二市に災害救助法が適用され、総額一三〇億円を超える甚大な被害となりましたことは誠に残念であり、被災された皆様には心からのお見舞いを申し上げます。国内でも三月の能登半島地震、七月の新潟県中越沖地震での多数の死傷者も多く倒壊家屋の発生は三年前の新潟中越地震を彷彿させ、地震空白区域を抱える本県への警鐘でもあったように思えました。

新春を迎え、消防関係者の皆様には、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様には、消防防災の最前線にあって、あらゆる災害から県民の生命・身体・財産を守るという崇高な使命のもと、日夜献身的に活動されていることに対し、深く敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。さて、昨年も、三月の能登半島地震、七月の新潟県中越沖地震、更には台風や集中豪雨など、全国各地で大きな自然災害が多発しました。

明るい話題としては、昨年九月二十九日から県下市町村に全国の精鋭三万人余が集って開催された第六十二回国民体育大会「秋田わか杉国体」は、国内最大のスポーツの祭典として、また多くの県民が一人一役の県民総参加の大会として大きな盛り上がりを見せ、特に県選手団の大健闘により本県が初めての天皇杯、皇后杯を獲得したことは県民に大きな感動と自信を与えてくれたものと思います。

また、消防関係では第十八回全国女性消防操法大会が昨年十月二十五日に横浜市で開催され、本県から出場した大館市女性消防隊が日ごろの訓練の成果をいかんなく発揮して見事全国準優勝で消防庁長官賞、日本消防協会長賞を授与されましたことに対し、心からのお祝いを申し上げます。

近年、消防団員の高齢化やサラリーマン化現象に伴い団員の減少が全国的に進み、国においては消防団員一〇〇万人確保のため、機能別団員の確保や女性消防団員の募集など様々な取り組みをしております。本県においても、消防団の入団促進と活性化を目指した「わがまちの消防団活性化

本県も、九月十七日から十八日にかけて、県北部を中心に記録的な豪雨に見舞われ、近年にない甚大な被害を受けました。被災された方々に対しましては、心からお見舞いを申し上げます。

消防団の皆様には、豪雨の中、被災者の支援や応急救助等に献身的な活動をしていただきましたが、県におきましても、昭和五十八年の日本海中部地震以来となる災害対策本部を設置し、被害状況の把握はもとより、被災世帯への見舞金の支給、農家や小規模事業者の復旧・事業再開に向けた支援、道路・河川・農地の復旧など、応急対策・復旧対策に全力で取り組んできたところでありました。

この豪雨災害により、改めて、災害に対する不備の備えと、防災体制の充実強化の重要性を認識させられたところでありました。

支援事業」を本年度に県から当協会が受託して諸般の事業を展開しております。消防関係者の皆様の積極的な参画によって新たな道筋を見出したものと存じておりますし、時を同じくして、市町村合併後において秋田県の消防力を維持・強化するための秋田県消防広域化の議論もスタートしたところでありました。

私達は、こうした大きな変革の時に際し、最大限の努力をして将来とも本県の消防防災体制の一翼を担っていかねなければならぬものと考えております。

当協会は、設置目的に沿い、今後とも消防思想の普及、消防施設の改善、消防活動の強化により県民福祉の増進に寄与するとともに、県下二万人の会員の皆様の福利厚生者の充実強化のために一層の努力をしてまいります。

終わりになりますが、消防関係者の皆様のご健勝と本年が災害のない穏やかな年になりますよう心から祈念いたしまして新年のあいさつといたします。

もとより、市町村消防は地域の安全・安心の「要」であり、災害が複雑化・大規模化する中、その充実強化は不可欠であります。それに向け、今後は「市町村消防の広域化」についても議論を深めてまいりたいと思っております。

皆様におかれましても、「自らの地域は自らが守る」という自覚と誇りを持ち、安全・安心な地域づくりのため、より一層ご尽力くださるようお願い申し上げます。

県としても、皆様と力を合わせながら、テロ等の有事への対応も含めた、総合的な防災体制の充実強化に全力で取り組んでまいります。

終わりに、皆様のご健勝と、今年が災害のない平穏な一年でありますことを心から祈念申し上げます、新年のあいさつといたします。



平成二十年の新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、常日頃より、防災の最前線にあつて、県民の生命と財産を守るため昼夜を問わず献身的に御活躍いただき、ありがとうございますことに対し、県議会を代表いたしまして心から敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、我が国は地形地質等の自然条件により災害が発生しやすい環境にあります。近年は、地球温暖化等による気候変動の激化に伴い、これまでに類を見ない局地的な集中豪雨が発生し予期せぬ土砂災害などが増加・激甚化し、全国各地に大きな被害を及ぼし、かけがえない生命と貴重な財産が奪われております。

本県においても、昨年九月、県北部を中心に未曾有の集中豪雨が襲い、死者行方不明者が出るなど住家や農作物に甚大な被害をもたらし、自然災害の脅威を改めて痛感させられたところであり、また、被害を最小限に食い止め、被災者の救出や救護、復旧活動に迅速かつ適切に対応するため、日頃から徹底した訓練を積み重ね不測の事

態への体制を維持確保されておられる消防職員並びに消防団の皆様は、地域における安全安心を担うリーダーとして地域住民から最も頼りにされている方々であります。皆様におかれましては、引き続き地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、今後とも一層の御精進と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。終わりに、皆様の益々の御健勝と本年が平穏な年であることを御祈念申し上げます。まして新年のごあいさつといたします。



平成二十年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のごあいさつを申し上げますとともに、昼夜を問わず消防防災活動に御尽力いただき、ありがとうございますことに対し心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、我が国の消防は、昭和二十三年三月七日に消防組織法が施行され、市町村消防の原則に基づく自治体消防として発足して以来、間もなく六十周年を迎えます。この間、関係各位のたゆまぬ御尽力の積み重ねにより、制度、体制、技術等各般にわたる着実な発展を遂げ、国際的にみましても高い水準を有しており、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしております。

しかし、災害列島ともいわれます我が国においては、地震や台風による集中豪雨等の自然災害によって、毎年のように各地に大きな被害がもたらされていますし、火災や危険物による大規模な事故等も後を絶ちません。昨年の能登半島地震や新潟県中越沖地震は記憶に新しいところであり、全国どこでも大規模地震が発生する可能性を有しております。また、東海地震、東南海・南海地震及び首都直下地震等の切迫性が指摘され、国際的な緊張が高まる中でテロ災害の発生も懸念されているところです。

このような中、大規模災害や事故、テロ災害等に揺るがない社会を構築し、国民の安心・安全を維持向上させていくためには、全国的、広域的な見地から消防防災・危機管理体制の充実を図るとともに、行政と住民が一体となって地域の消防防災力を強化していく必要があります。

このため、消防庁では、消防体制の整備及び確立を図ることを目的とした改正消防組織法及び市町村の消防の広域化に関する基本指針に基づき、消防の広域化を積極的に推進してまいります。

また、昨年六月に改正された消防法に基づく民間事業所における自衛消防力の確保の促進や危険物事故防止対策の充実強化、緊急消防援助隊の充実と機動力の強化や被災地情報の収集能力の向上、特別高度救助隊・高度救助隊や国民保護体制の充実強化等、大規模災害やテロ災害に対する備えの強化に取り組んでおります。

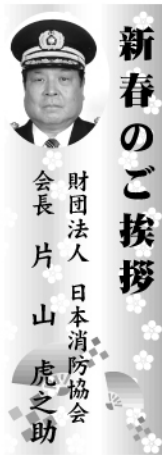
一方、地域防災に重要な消防団の充実強化を図るため、消防団協力事業所表示制度の導入及び自衛消防組織の消防団への加入促進、消防団員確保アドバイザーの派遣など、引き続き、消防団の充実強化に係る様々な政策を推進し、消防団員の確保に全力で取り組んでまいります。

さらに、救急車の適正な利用の推進等の救急需要対策や、平成十八年まで四年連続して一、〇〇〇人を超えている住宅火災による犠牲者の減少に向け、住宅用火災警報器の設置等の住宅防火対策を含めた防火安全対策等も一層推進し、総合的な消防防災対策を積極的に展開してまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様方のますますの御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。いただきます。





新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会
会長 片山 虎之助

平成二十年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、常日頃、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、本年三月に、自治体消防は六十年を迎えます。この間、我が国の消防は、関係者のたゆまぬ努力の積み重ねにより大きな発展を遂げ、今や地域住民に最も身近な防災機関として、国民から多大の信頼と期待を寄せられております。今日までの歩みに改めて思いを致し、国民の安全安心の確保のために一層の努力を傾注する決意を新たにしているところであります。

今日、災害や事故は複雑多様化の傾向を強めており、住宅火災による焼死が続発しているほか、台風、集中豪雨による風水害が多発し、さらにガス爆発などの特殊な事故が生じております。

また、昨年は三月に能登半島地震、七月に新潟県中越沖地震が発生しており、ひきつづく大規模地震の発生が懸念されております。

また、国民保護法に基づく役割も新たに加わっております。

このような中で消防活動には一層の充実が期待されておりますことから、日本消防協会では、新たに消防ポンプのほか救助資機材等を組み込んだ消防団向多機能型車両を交付することといたしました。

消防団は、地域防災の中核です。これからの防災体制の強化のためには、常備消防の充実もとよりですが、消防団が要となりながら、婦人(女性)防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般住民の皆さんが、一体となった総合的な地域防災力を充実させる必要があります。

消防団員の減少傾向はまた消えてはいませんが、全体としての減少数、減少率は低下しており、県単位、消防団単位では増加しているところもみられます。ひきつづき、関係者とその協力連携のもとに団員確保に全力を傾けてまいりたいと考えております。

このことも関連しますが、本年五月には、世界初の消防団国際会議を開催します。世界主要国の義勇消防関係者が東京で一堂に会し、義勇消防隊員の確保など共通する課題について情報・意見の交換を行います。

また、自治体消防六十周年に協賛する意味も込めて、本年十月の第二十一回全国消防操法大会は、東京ビッグサイトで行い、消防操法の全国大会としてはもとより、全国消防団員の交流や一般国民に対する消防団の周知の機会としても大きな効果があらわれるようにしたいと考えております。

このようなさまざまな活動を通じて、日本消防の益々の発展のため、本年も最善の努力をいたしますので、関係者のご支援ご協力をお願いする次第であります。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご健健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして年頭のごあいさついたします。



新年を迎えて

消防大学校長
三宅 義彦

平成二十年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

皆様には、住民の安心と安全のために日々ご尽力下さり、心から敬意を表します。また、消防大学の運営にご理解ご協力を頂いておりますことに、厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り、当大学は、消防に関する唯一の国の教育訓練機関として、消防職員・団員の幹部として必要な最新の知見、或いは専門分野の高度な知識技術を習得させることを目的としておりますが、教育訓練の実施に際しては、時代の要請に応じたものとなるよう、その内容や体制は随時見直しております。

最近では、「二〇〇七年問題」と言われる消防職員の大量退職の時期における幹部

職員の養成への対応として、総合教育の「幹部科」について、平成十九年度から入校前のeラーニングによる個別学習を導入し、集合教育時の内容を発展的なものに重点が置けるようにすると同時に、年間の開講回数及び募集定員を増やして養成人員を拡大するなど、教育内容の充実と効率化を図っております。

また、大規模な事故・災害に備えての広域的な対策や、テロ災害等における国民保護対策など、消防として新たな展開を担う専門分野の人材養成への対応として、緊急消防援助隊教育科の「NBC・高度救助コース」と「高度救助コース」について、高度救助器具を活用した実践的な訓練の密度を高めるために、平成二十年度から教育訓練日数を増やすこととしております。特に、「NBC・特別高度救助コース」では、テロ災害に対応した救助隊幹部教育及び原子力災害対応教育の充実を図っております。

いうまでもなく、私たち消防関係者が目指すところは「安心・安全な社会」であり、関係者一人ひとりの献身的な努力、いわば「人のために尽くす姿」、「地域を愛する心」に支えられ実現されるもので、こうした姿や心は、是非とも未来に引き継いでいかなければならないものと思っております。当大学校においても、これに貢献できるよう、単にその時その時の最新の知識・技術の修得という事にとどまらず、誰よりも地域住民の安心・安全を思う高い志・見識を

磨き上げる事にも意を用いて参りたいと思
います。

今後とも、当大学校に対し、変わらぬご
理解とご支援をお願い申し上げますと
に、皆様の一層のご活躍とご多幸をご祈念
申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭のあいさつ



秋田県市長会会長
秋田市長
佐竹 敬久

全県消防関係者の皆様には、謹んで新年の
ごあいさつを申し上げます。

皆様には、日々、技術力の向上と土気の
高揚に努められ、各種の災害から地域の安
全と安心を守るため、全力を挙げて取り組
まれておりますことに、心から敬意を表し
ますとともに、深く感謝を申し上げます。

さて、日本は地震列島といわれますよう
に、毎年、大きな地震が頻発しており、昨
年も、石川県能登半島地震、新潟県中越沖
地震などの大きな地震が発生しておりま
す。また、相次ぐ竜巻や秋田県を八月、九
月に襲いました集中豪雨などにみられます
ように、近年、多くの自然災害が発生し、
私たちに脅威をもたらしております。さら
に世界に目を向けてみましても、大規模な
干ばつや異常な暴風雨など地球温暖化の影
響と思われる災害が猛威を振るっており、
永久凍土の融解、氷河の後退も急速に進む

など、地球の平均気温の上昇は、その気象
システムに変化をもたらし、これまで経験
したことのない災害発生の可能性も示唆さ
れてきております。

このような中、災害に対する私たちの対
応力も、これまで以上に高めていく必要が
あります。幸いにして、消防に携わる皆様
方におかれましては、施策の検討・研究は
もとより、自主防災組織の育成や地域と連
携した訓練の実施等、各般の施策に積極的
に取り組むなど、日夜を違わぬご努力の積
み重ねにより、様々な事態に即時対応でき
る体制が確立されており、相次ぐ災害に対
して、迅速・的確に対応されておりますこ
とは、住民が消防に寄せる期待に大きく応
えるものであり、誠に心強く、私も大いに
誇りに思う次第であります。

災害をなくする手段がない中、今、いか
に被害を最小とすることが出来るかは、災
害に対する備えを十分に作る、即ち、日頃
からの危機管理が重要であり、過去の教訓
を生かし、さらに災害を予想し、そしてど
のように対処していくかであろうと思いま
す。

消防の果たすべき役割と期待される責務
は一段と重きを増しております。目まぐる
しく変化する社会・自然環境のもと、被害
の拡大を阻止し住民の安全を確保するた
め、どうか皆様におかれましては、地域防
災の中核として、一層のご精進とご尽力を
賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、今年こそは平和な一年であり

ますことを願い、関係各位のご健勝とご発
展を祈念いたしまして、ごあいさつとい
たします。

新年のあいさつ



秋田県警察本部長
竹内 浩司

平成二十年の年頭に当たり謹んで新年の
ご挨拶を申し上げます。

消防関係者の皆様には、日夜、火災等の
各種災害の最前線で献身的に職務の遂行に
励まれていることに心から敬意を表しま
す。

我が国は、台風、地震・津波などが発生
しやすい地理的な条件を抱えており、災害
も大雨による洪水や地滑り・崖崩れ等、常
に大きな災害に発展する危険性を孕んでお
ります。

県内でも昨年九月には、集中的な豪雨に
よって県北部一帯、とりわけ北秋田市では、
亡くなられた方、行方の分からない方など
の人的な被害のほか、住宅、道路、橋梁、
そして農作物等に甚大な被害が発生してお
ります。

一方、世界に目を転じますと各地で一般
の人までもが犠牲となる悲惨な無差別テロ
が頻発しております。

ご承知のように、本年、夏には北海道洞
爺湖において世界の主要国首脳が集う「サ
ミット」が予定されており、我が国におい

ても、テロ発生の際が一層増大している
ところであります。

このような大規模な災害やテロなど、突
発重大事案等の発生、被害から県民の生命、
身体、財産を守るという任務を有する消防
と警察の責務はますます重要となり、県民
の期待も大きなものがあります。

県民の希求する安全で住みよい地域社会
を実現するために、秋田県警では、本年も
警察運営の基本方針を

「安全で安心な暮らしを守る力強い警察」

とし、重点目標に
く県民のために 県民とともにく

「テロ対策を始め突発重大事案・大規模
災害対策等の推進」

を掲げ、「テロの未然防止対策」そして
「突発重大事案や災害発生時の迅速な対応」
などに取組み、万全を期する所存でありま
す。

そのためには、消防、警察を中心とした
防災関係機関が緊密に連携して諸対策を推
進して行くことが最も重要であると考えま
す。

今後ともご理解とご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝と、消防行政のご発
展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とい
たします。



新年のご挨拶

第二十一普通科建隊長

兼秋田駐屯地司令
一等陸佐

原 友 孝

平成二十年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

消防業務の第一戦で日夜献身的に職務を遂行し、ご活躍される皆様のご努力に対し、深甚なる敬意を表しますとともに、平素から自衛隊に対するご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今、地震・台風・集中豪雨等の自然災害が相次いで発生しております。全国的に見ると、昨年の七月に「新潟県中越沖地震」が発生し、秋田県内においても、八月に県南地域での大雨洪水、更に九月にも北秋田市をはじめとする県内全域において大雨洪水が発生し、大規模な被害に見舞われた痛ましい状況はいまだ記憶に新しいところでもあります。

正に、大規模災害はいつ起きても不思議ではないとの状況であり、こういつた中、消防関係者皆様の日頃からの地域に根ざした地道な活動が本当に重要だと思えます。

我々自衛隊としても、県民防災の日をはじめとする各種防災訓練、国民保護協議会への参加等貴協会・自治体との連携強化に努めているところでありますが、今後とも災害から県民の生命・財産を守るとの共通

認識の下、更なる連携強化を図り、いかなる状況にも迅速に対処できるよう即応態勢を確保してまいります。

終わりに、本年が災害のない平穏な一年でありますようお願いするとともに、消防関係者皆様の安全と益々のご健勝・ご発展をご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。



新年のご挨拶

秋田海上保安部長

河 合 美 男

平成二十年の輝かしい新春を迎え、県内消防・防災関係者の皆様には謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、日頃より火災をはじめあらゆる災害から地域住民の生命・財産を守るため、日夜献身的にご尽力されておられますことに対しまして、深く敬意を表します。

また、海上保安行政に関しましては、常日頃からひとかたならぬご理解とご協力を賜っておりますことに、本紙をお借りして、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は、亡命を企図した北朝鮮人男女四人が乗った小型漁船が青森県深浦町沖に漂着するという、隣接県としては大変ショッキングな事件が発生いたしました。

北朝鮮の船を使った亡命企図事案の発覚は、昭和六十二年に韓国への亡命を求めた

朝鮮人医師ら十一人が福井港に入港した事案、いわゆる「ズ・ダン号事件」以来のこととであります。

海上保安庁では、平素から、巡視船艇および航空機により、わが国周辺海域において不審な行動をとる船舶の監視・警戒に努めているところでありますが、今回の事案を踏まえ、日本海側における監視・警戒をより一層強化しているところであります。

また、同種事案への水際対策については、一般市民の方々からの情報提供等が極めて重要なことから、広く情報提供をお願いしているところでもあります。

一方、秋田県では幸いにも大きな船舶海難こそありませんでしたが、水難事故による死亡者は後を絶たない状況にあります。

今後とも皆様を始めとする消防・防災機関や地方自治体、警察機関、陸海空自衛隊などの関係機関等との緊密な連携を図りながら、海上保安行政に万全を期す所存でありますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝と消防行政のご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



年頭のあいさつ

秋田県指定水防管理団体
連合協議会長

大館市長

小 畑

元

平成二十年の新春を迎えるに当り、全県

の消防・防災関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

ここ数年、秋田県に於きましては、比較的災害が少ない年が続き、胸を撫で下ろす事が多かったのですが、昨年は、九月に秋雨前線による豪雨災害が発生しました。

死者及び行方不明者が各々一名をはじめとし、被害総額百二十億円余、全半壊及び床上浸水被害が五百棟超という甚大なもので、県では昭和五十八年の日本海中部地震以来二十四年振りに災害対策本部を設置するという大災害でした。

このような災害がある度に、水防団の皆様には被害を最小限に食い止めるためいち早く対処していただいたところであり、改めて深く敬意を表したいと思います。

県では、このような災害状況を踏まえ、今年度から始まった秋田市の新城川の河川改良工事の他、国の事業採択を待ち、来年度からは阿仁川の改修工事も予定しております。同様の被害は減少するものと思われます。このように、着々と実施される河川改修工事の進捗は、水防団の皆様の熱意に大きく答えるものと考えます。

当協議会においても、治水事業の促進に加え、洪水や土砂災害に関する情報提供やハザードマップの作成、危険情報の周知等について、毎年のように国土交通省をはじめとし、関係機関に働きかけております。

しかし、災害時に於いてはハードは勿論ですが、皆様水防団をはじめとした人的な活躍なくしては語ることが出来ません。

新年におきましては、災害のない一年であることを祈念しつつ、消防団の皆様におかれましては、今後とも安全安心な地域づくりの一翼を担っているという大いなる自負心を持って頂き、より一層の御活躍を祈念しまして年頭の御挨拶とさせていただきます。



平成二十年の新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様には、秋田県消防防災の第一線にあつて、あらゆる災害から県民の安全・安心を守るため、日夜献身的な活動をしておられますことに対し、深く感謝申し上げますとともに、心から敬意を表します。

さて、昨年は雪の少ない穏やかな冬、そして春を迎えて、大きな災害のないことを祈っていたのでありますが、昨年九月十七日に県北部を襲った集中豪雨は、建物の破損・床上・床下浸水が、二、二九〇棟にのぼるなどで、二市に災害救助法が適用され、総額一三〇億円を超える甚大な被害を受けたことは、誠に残念であり、被災された皆様には心からのお見舞いを申し上げます。

また、この災害で北秋田市、能代市などの県北の消防関係者の皆様の日夜を分かつ

ずの懸命の活動も誠に苦勞様でございますました。

今後とも、地球温暖化などが影響しての異常気象による災害は、いつ起きるのかわからないものがあり、油断は禁物であり、私達は常に臨戦体制の気持ちでゆるめることはできませんし、消防関係者の皆様には気の休まる時はなく、大災害到来時代の心配をせずにはられません。

この災害対策の最中ではありましたが、昨年九月二十九日から本県で開催された第六十二回国民体育大会「秋田わか杉国体」は、県民が一人一役の県民総参加の大会として大きな盛り上がりを見せ、選手団の頑張りで本県が初めての栄えある天皇杯、皇后杯を獲得する大成功に終わりましたが、かつて県議会議長、県体育協会副会長としてこの国体誘致に取り組んで来たことなどが思い出されてついつい涙を流して喜んでしまいました。

さらに、昨年九月二十八日の秋田魁新聞が北斗星の欄で今回の国体と私との関わり合いのことを「水を飲むときは、井戸を掘った人の労苦を忘れてはならない」と取り上げてくれたことは感激の至りでありました。

私も、永年お世話になりました消防協会をはじめとする公職を退任いたしましたことが、現在は県力ヌー協会や土地改良関係の仕事を中心にお陰様で元気にすごしております。

消防協会は、私の“ふるさと”であり、

私の生き甲斐でありました。消防団員の確保をはじめ課題山積のことと存じますが、やる気満々の中泉会長を中心に消防関係者の皆様が知恵を出し合い、本年も県民の生命・財産を守るために一層のご奮闘をされますよう併せて皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のあいさつといたします。



平成二十年の輝かしい新春を迎え、秋田県消防関係者の皆様に謹んでご挨拶を申し上げます。

日頃、消防団員・職員の皆様が防災の最前線に立ち、火災をはじめ、あらゆる災害から国民の生命、身体、財産を守るため、献身的に活動をされておられますことに対し、深く敬意を表しますとともに衷心より感謝申し上げます。

さて、自治体消防発足以来六十周年、我が国の消防は幾多の先人と皆様をはじめとする関係各位のご尽力により、地域社会に密着した防災機関として、着実な発展を遂げてまいりました。

しかしながら、災害列島といわれます我が国において、火災や災害・事故も毎年のように全国各地で発生しており、多くの尊い人命やかけがえない財産を失っているところでは、昨年三月の能登半島地震をは

じめ七月の新潟中越沖地震、さらには九月の東北地方に大きな被害を与えた豪雨災害は記憶に新しいところであり、本県においても大きな爪痕を残したところです。

大規模化・複雑多様化する災害や、国内外の経済、社会情勢の変化によりテロ災害や危険物災害等人的事故の危険性も増大しており、それら災害に揺るぎない社会を構築し、安心・安全を確保しなければなりません。

そのために消防庁では、消防の広域化の推進や消防団員確保の強化、さらには消防団と民間事業所や自主防災組織との連携を強化し、地域防災力の充実を図るなど、さらなる消防力の強化を図るため、総合的な消防防災対策を積極的に展開していくことを、平成二十年重点政策として位置づけているところであり、秋田県消防長会としても、これら諸課題に対し県内十三消防本部消防長の英知を結集し、連携を密接に保ち、地域住民が安心して暮らせる「災害に強い安全なまちづくり」の実現に向け全力を挙げ取り組んでまいりたいと考えております。

各関係機関の皆様におかれましては、今後とも安全な地域社会の確保のために、今まで以上のご協力をお願い申し上げます。

終わりに皆様方のますますのご健勝と、本年が災害の少ない穏やかな一年でありますよう、心からご祈念申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。



年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様には、常日頃から本校に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本校では昨年九月、消防職員の大規模退職や消防を取り巻く環境の変化等に対処するため、教育訓練基本方針を策定しました。消防職員の育成目標としては、職務上必要な技能を持つ消防職員の育成と管理・監督能力を持つ消防職員の育成を掲げ、消防本部と役割を分担しながら、実践的なカリキュラムなどを通じ、教育訓練の一層の充実強化を図ってまいることとしております。具体には、近年増加している救急需要への対応についてですが、中でも高齢者の急病事案が著しく増加し、加えて応急処置も高度な技術が求められておりますので、救急救命士の教育訓練を充実することとしております。

次に、女性消防職員の入校対策についてですが、昨年は、横浜市で開催されました第十八回全国女性消防操法大会で、大館市女性消防隊が見事優勝されるなど女性の消防活動にはめざましいものがありました。このような女性団員の活躍の影響もあつたのか、本県でも、三十二年ぶりに女性消防職員が誕生し、四月には初任教育に入校

します。女子寮の整備など教育訓練には万全を期すこととしております。

さらに、消防団員教育につきましても、受講されます団員の方々が、年々、減少していることが懸念される場所ですが、本校としては、入校して行う基礎教育や幹部教育、一日入校教育のほか、本校の教員がそれぞれの消防団を訪れて行う現地教育も行っておりますので、是非とも多くの方々を受講していただきたいものと思っております。

年頭に当たり、本校の取組について申し述べてまいりましたが、今後とも、変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、皆様方の一層のご活躍とご多幸を祈念しましてご挨拶いたします。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服
- 消防器具
- 各種
- 各種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185)(52)6361
(52)6494

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シパウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651

秋田の消防を考える県民の集い

記念講演会

入場無料

平成20年 **2月9日(土)**
開場 午後1時30分 開演 午後2時から

秋田市文化会館小ホール

講師 水中写真家 **中村征夫氏**

演題 「北海道南西沖地震に遭遇して」



講師プロフィール

水中写真家 1945年 秋田県(潟上市昭和)生まれ
20才の時に潜水と水中写真を始める。現在、海を専門とする撮影プロダクション株式会社代表。国内外の海を精力的に取材し、数多くの話題作を発表。ライフワークの東京湾をはじめ、水俣湾、諫早湾など、人と海との関係や、「命」を基本姿勢に取り組む報道写真家でもある。講演会やテレビ、ラジオなど様々なメディアをとおして、海の魅力と環境問題を伝え続けている。

1988年には写真界の芥川賞といわれている第13回木村伊兵衛写真賞を、1994年には第9回文化庁芸術作品賞を、2007年には日本写真協会年度賞と、これまた写真界の直木賞といわれている第26回土門拳賞を、更には永年の活動をとおした本県文化の向上発展への功績が認められて秋田県文化功労者表彰を受章した。

集いスケジュール

開 会	午後2時	第 二 部	・女性消防団員意見発表
第 一 部	中村征夫氏講演会		・活力ある消防団への提言
特別演技	まとい振り	閉 会	午後4時

どなたでも
参加
できます。

○主 催 財団法人 秋田県消防協会 ○後 援 秋田県・秋田県消防長会
 ○問い合わせ先 財団法人 秋田県消防協会 TEL (018)867-7320 FAX (018)863-5910

主 事	監	理	副 会
同 務 局	同 同	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	同 同 会
事 長	事	事	長 長
石 山 和 美	佐 藤 孝 道 夫	菅 野 道 一 喜 男	浅 野 十 喜 男
成 田 彌 忠 誠	草 沼 一 富 之	日 佐 藤 勝 直	石 川 石 正 文
大 石 子 哲 雄	金 澤 清 之 助	柳 城 清 之 助	宮 木 正 博 臣
鈴 木 博 英 勉	齊 藤 井 山 勉	藤 井 山 勉	畠 山 村 田 泉 松 之 助
中 田 泉 松 之 助	中 田 泉 松 之 助	中 田 泉 松 之 助	中 田 泉 松 之 助

財団法人 秋田県消防協会

